源氏物語

桐壺
箒木
空蟬

一

成孚藏

何内女

右表紙

明京極中納言宗家卿女

明桃物院のゐらひ女郎の事なるべし

明次女一校今西掃部為家卿

墨書表紙

青表紙

宮内

宮内

宮内

右三条院御所

宮内庫

奥之ヶ(こと)りなるよし、年々の道中の所大船のとおりとして、ひとつ[illegible]
[illegible]を[illegible]と[illegible]後に[illegible]海の為に船[illegible]一部と一軍とを[illegible]
[illegible]して山[illegible]の寺[illegible]あるよし、又河原の[illegible]
和氏大[illegible]た住の事[illegible]西[illegible]
[illegible]
物語宮[illegible]
[illegible]

草壁皇子尊
天皇王朝父ナリ

壁幡[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上東門院　彰子

御堂関白道長女母一条左大臣雅信女倫子腹子
長保元年十二月朔日　従一位十二女御
三位十二女御寛仁九年四月天皇三宮万寿二正十九
皆歳為尼年九月号上東門院法名浄覚年号
年爵如元永保元十三崩年七長暦二出生九月東北院
御剃除髪之事之下毒之御出家無尾之世時此
法為尼五年寿三年院位後五年崩年八代之国母也
以去殿東記書之

□式部卿系図

- 清綱（藤原長頼ノ六男）
  - 元名
- 文範（中務ノ丞）
  - 為清
    - 仲清
      - 範清
- 為信（河内常陸介 摂津守）
  - 理明
  - 女子（右大弁為時室 紫式部母）

原中興入道殿御歌集 追加 水原抄 何時ノ作カ 何時ノ作カ

紫式部集 紫式部ノ歌集ノ事 原中最秘抄 中秘抄ノ作カ

河海抄 源氏物語ノ注釈 原中編 弘安年中編ノ原中抄ノ注釈書

明星抄 明星抄ノ作カ 和秘抄 和秘抄ノ作カ

乱脱集 乱脱集ノ作カ 不審抄 不審抄ノ作カ

紙屋 紙屋ノ作カ 明星抄 明星抄ノ作カ

ヤンコナキハ上鶴ノ分際ヲ云又ハヤムコヲ卍又ミモ云リ

後撰ノ歌ニ書ニナカ原ノムコ子キカミノ国ヘ中略 二三日ハリテヤンコナキコ

ヨリテ一カリ立ケハ云ヘ 蜻蛉ノ日記ニハヤムコアルト云コトモアリ

サラハニ三日トニル(カラス) 案ヤンコトナキハ手ニオハヌ心ナレハ品タカキコ用ウルナルヘシ

メサヽシキ 帚木ニソハサルカタノ心モナリテハメサヽシキアルシナラントノ玉ハ云ヽ

玉葛ニ在北ノオトヲハメサヽシト心オキ玉ヘリ 又思ヒヤリケタカキ上ハメ

サヽシト見玉フ是咎眼ノ心ニ非ルヿ知ヘシ

桐壺

桐壺一 桐壺ニ 義清ヲ云 鴻臚館ノ日

桐壺

一 やむごとなきかたの御ときに女御更衣あまたさぶらひたまひけるなかに

傑人ノ桐壺更衣ノ事ハ

衣ノ事ハ桐壺更衣ノ事ニ

オフハカナタヨリ

ワサヲ云ルナリ

住未ノ上ヲモテ

事ヲツクセリ

日本紀弥留ヲ

アツシレトヨメリ

病ノオモル心ナリ

篤癨アツシレトヨメルモ病ノカ早

ヲ篤ヲイヒ重ヲ

アツシトミヤ

里カチ

和名周易説卦

云爲堅タ多心

師説タ心

積奈賀古可達

何カナトニ類比ノ

多ノ字ナルヘシ

ヘバユキ

ヨノ光ニ向ヒカタキ

ホトノ御覚ナル

(種姓ヨキヿヲ心ニモチテ)

大納言ナドノ種姓

(非芝蘭三位ナ或少納言又弁ナ

衆ヘ)

ヤガテウラノシキ心ヲウゴカス

男子ニミテ怒心ノ反ルヲモテ竜ノ極ヒルヲ見セタリ

天子ノ御事ハ記録ナニモノスルモナレバカラ

メシニモナリモヒメキ御モケナレリ

多サヲ論スル詞

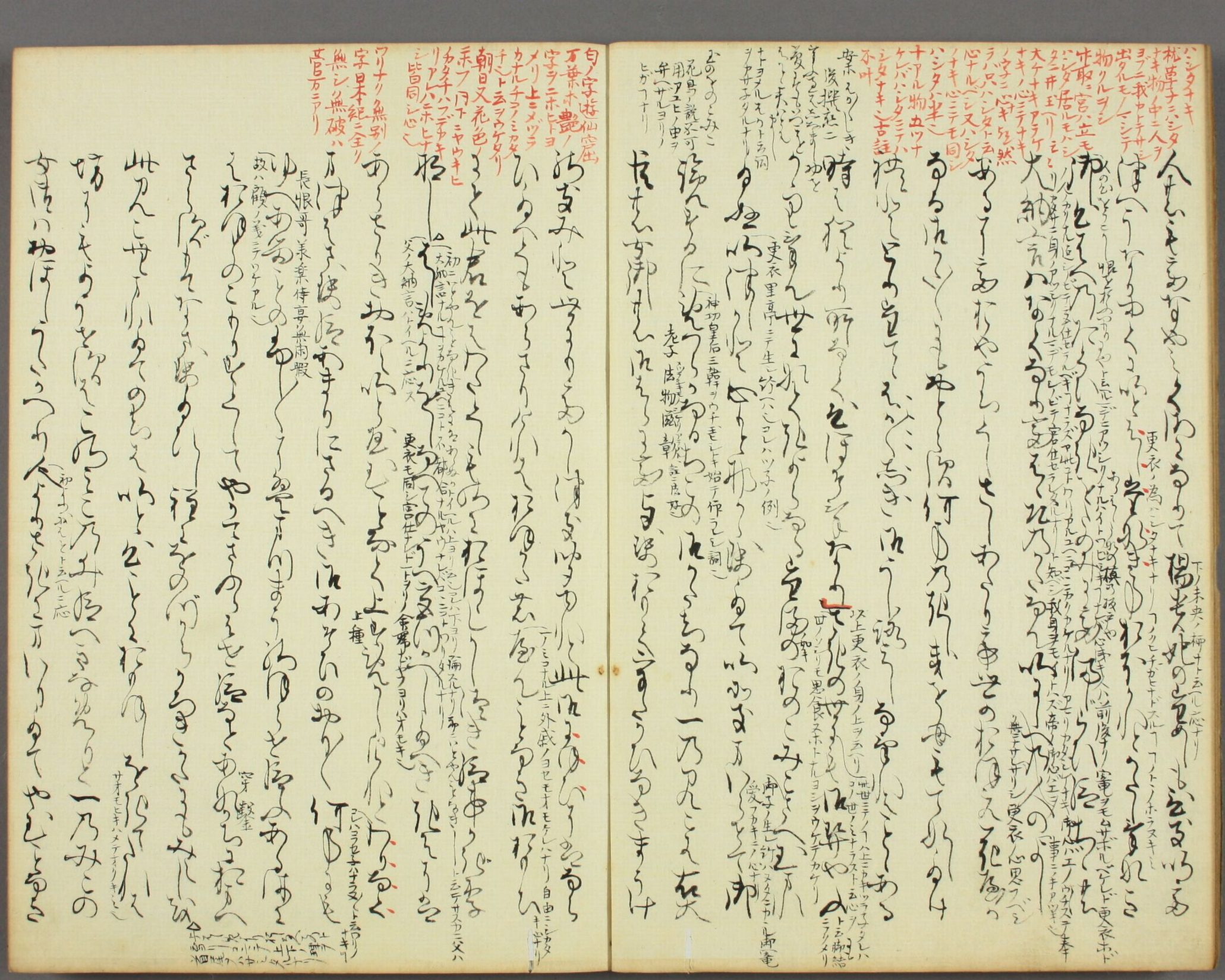
以上大意 無合ノ美ニシテ

以下世ノ歌ノ

ミテ世ノ歌ノ

更衣桐壺愛ノヲヲサス

世限宮中ノコナレド天下ノ政事ニモ及フコヽ



以下ハ女郎ノコヨリツヽケテ更衣タキナノフラケリ

草ノ地

以下ハ世ノヤウニ書クル例皆コヽニキシナリ

坐原氏君ノ説

以上電ヲ人ノ恨ヲウケシ故シカヽリ

御待ヲ上ニヲコヲ公セル

以上光君殆ノ着ノ

坐長ノ重ノモアル上原ノ坐生ノ着ノ

ヨリソノ生ラズ里ニオリテ養生セントテナリ

ヨヨスゲ抄

全リナシ不可用

桐壺ノ院ハ更衣ノ入内ニテ電ヲ胃タル姫給フカヽリ

愛宕二

（三百四十里ガナルナリ）

カリ帝ノ思食モノヲト思フニナンコリ
オモ尾ト云ナリ

（前ニハシタナメウワラハセタルコドモ
アリシコヘ心カヒナリ）

（コドモタチノ思ヒ味フニ）

（ヒキテモトヒメモヒル人ハ数度ナリ）

（退出シテ実ニ出ヒ下ニウツ物ヲ）

（退出クラヒ大意）

（ヒ手ノ文ヲ云リ）

（上ニ危ナシ）

（ヒ手ノ文ヲ云リ）

（ヒ手ノ文ヲ云リ）

（ヒ手ノ文ヲ云リ

ユキカフ 何
交加不知出所
百六 住及如井
上ヨメリ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ナタラカ 河平ナタラカト ヨミテ日本紀ニナシ

不ヂキウ 無人望 世空日本紀 不見

奥入 世奇何 六帖ニ哥ハ黒 サヒニカタラハテ述シキモイト別テゾシル

草と本と

以上更衣葬送 以上更衣葬送ノ後ノ事

以上更衣死後里帰ノ上モ

万ニ雷ノ字 ナカラヘテ上ニヨノツニ律ニ見ルシ

寒シトヨメル ヲタシ 将トカキ タルハナシ

盛章紫ハカナ キヨ上出ル 哥トモ云ヘレトモ サナラデモアト云 出ル詞ト見ルヘシ

集ツトヨメル 紀ニモ推量ル 神集ニ心エアヤ ニルニヤ都ノ字モ ツトヨメルナシ フツニ氏カウナシ 常ニヨメリス

見ニリカラスホトニ

世ト名字ホドノナレバ世頃トテモ猶目ヤリシオルギ

安死者伊土夢 ヨリ一サラストイフ 現ニモ猶オトルルト

野ノタケテ三ルシ

以前ノ文ヲ

南ノ方ヘ三月サ入ルハタ月ノ比ノ

（年堀ヲ車ヨリオロシテトモヤハラタルトモ車ノ長柄ヲコヽニテ牛ヨリオロシタルアリ三ヤリ左
ハ下ニヨロヲカトヨン前サキ）

（世君ハモト年四スキ人ニモアラヌウヘニ恩中ナレバレビテハトモ
上ノ方ヲ見ルヲモトアルニ首ヲ低セリ）

（羽合ノ美ヲ出テ鳥ノ子ヲカフヨリ出タル同ナリ）

（更衣形見トミルモハカナキ一ナレド猶ト云心）

（サル、家ヲヨメル心ナルハシ
更衣世ニアリテ御ヲハヾカリ哀ハアルヽジ母
チキヲ詞テ御ヲハヾカリ哀ハアルヽジ母
ヒニテヲサヤトヲニテナヒヒ好
泪ヲヲトヲ花鳥ニ任セラレタルハ契神ノ云如リ世ニテハアルヽジケレド自ラ涙モヨホ
子カレノタリ）

（世君ハ年四スキ人ニモアラヌウヘニ恩中ナレバレビテハトモ
上ノ方ヲ見ルヲモトアルニ首ヲ低セリ）

（更衣形見トミルモハカナキ一ナレド猶ト云心）

（羽合ノ美ヲ出テ鳥ノ子ヲカフヨリ出タル同ナリ）

（泪ニテ）

（不審ニ思フ）

（世君ハ年四スキ人ニモアラヌウヘニ恩中ナレバレビテハトモ
上ノ方ヲ見ルヲモトアルニ首ヲ低セリ）

（世君ハ年四スキ人ニモアラヌウヘニ恩中ナレバレビテハトモ
上ノ方ヲ見ルヲモトアルニ首ヲ低セリ）

（カヽル所ニ三ヲトヲルハ下ニ平ニ云タヽ信ニ
ノモヒリニセヌトヲキヽトヲ）

（世君ハ年四スキ人ニモアラヌウヘニ恩中ナレバレビテハトモ
上ノ方ヲ見ルヲモトアルニ首ヲ低セリ

百三八百磯城百師木

ヨトキテ世河ホシ一所モ百敷トカケシ

コトシ又百シキハ百官モ未定時リノ名ヲ百官モ大数ヲ三六付流布

ゆし

世ホキヲアワルヤウニ思フヒド俗三云ヒ

サレバイヒキモモ

大セツニ思ヒアワ

カフコミ云ヒリ

里ヨ里ヨトニゆ

ーキ四ツ半ヨリ

イルモ世ヨカナリ

ゆしのこと

ゆしのこと

月ハ入テこの空ト下ニカヘル心ヒトツニ応セリコレハ子ノ結ノホトノ二ヤ下ニ月モトリヌトアリテ丑ノ時ノ見ヘメリ

長久ナラヌモノハ必ス前ニ是ニキヲフルモノ

世ハ物ヤトノ甚ニモラマヤウニコシテ盃ト虚ノ理ヲ知ル女ナリ

人めかれくるうれたきもあるかと

いかなるつらの宜ふ人なれとも

柴

なかめかくいはしてとえいふるかくるあまこそるかし人せうみをわらし

妻衣舞髪人皆ヒトシテ前ニタリ

サレハソレガ人ノ早ニ人ノ恨ヲキヲ主ニ

クリヒテ主ヒルニ人又指サレ矢ニシテ

人ノヨフトハ書ルニ

ちるとあるこそはかなけれ

ちるとあるこそはかなけれ

ちるとあるこそはかなけれ

於雜下
東三条殿大饗の長の事

成立早葉
傳ニテモ
古ノクハ術ニテ士
モタナサラハ人ワテ
ニテモ玉ノアリカハ
ニル（キナトシ）

抗草ニ西ニアキテ
オトル物カタリ
ニテスレト同タ
男女ノ容ニ

成立早葉
ウルハシウ
ナウカヒヤラスヒタ
ムキナルフ貴
妃ノサニヲオホシ
メシヤリタルニ

母ホハヨリモノアリナ
ヲ（ルナレハウルハシウ
同ハ伊物ニウ
見ヒ立ハ心ニテ
随分ニモカラメキタル装ハ美容
神ナノ如リニモ見ナサ
レタラントニムヤサラス
神美容ナ上ニ豆見光
中サフウルハシウ
タルコモアリケメトノ
心ニソ

坐更衣ノ間度ヨリ更衣アリ上ヨオホシ出セル一段
の物ハ出ノ
物ハ物ニ
ウ首尾ナリ

悪信ノ住ニ
ウ

花ヤカニ立セ
キ物

ますらの御子の思ひ
家押立オホシ
日本紀オシヤト
ハヨコメレトカ強
タルニハ全ナシ今
ノカトクニキハオ
ノ字ノ意ハ上ニ
石ノ尖ナトノ心ナル
（ニ）

ますらを

鶴岡館四

（ハシヲキシ）（ここハ今倍ニオノロキホドノ人トミヘタリ）（ヲクラ）（ヲキ）（ハ今里言ハムトキニアタルキシ）
とゝうこくたるをもあてあ
（原ノ心中）
（源ノ詞）
（今量ヲ和ニテノ意ノ上リライフ同ニテ）
（ナリ用）
（猛キコヒ云ナル）
（ヒ藤ニ里ニ原ナレ其ニシテカシトテ）
（物ヲハチラヒドハ知ワクホドハ支物ナルラナリ心）
（御方ニ心ニツリフ云）
（琴ハ用ハ尽サリノメノモテアソヒモイナハ）
（五レレモナリ）
（ヒ）
（ウタテ 官方ニ内ノ好ノ白ノト云ヲヲ引様トヤセ玉ヒリ）
（ヲ）
（ヲ）
（ヲ

[illegible]

きえうとく

除毎月（ゴトニ）（三上ニ道ニノサエヲトヒ）

其ツキナハ一本一能ヲトヒ堪能ナルヘシ

[illegible]

（ニハ高藤相ヨリ以前ノ）

[illegible]

（前ニモ中ニアヤウオホシハヒリテトサアレハリ頃相ハ人ヒモ置玉ヒリ）ナルヘシ

[illegible]

（東高藤ノ相中ト相宮曜ナトニカヘテ見セセキ）ハ帝モ何トソ人ヨシト申サハ太子ニナサレタク思食テノ御心ナルヘシ余情

藤壺五

[illegible]

（以上観相イフノ人タリ）

（世ニ多ク上リノ美）

（世ニ上ノ世ノ中ヲウラナヒ）

[illegible]

所ノ内ノ人ヲ三代ノ御ノ人ヲ
ものとえんとゝゝ
ものとえんとゝゝ
ものとえんとゝゝ

（ハイヤガルヲクヾリトシテソノウラスルキミナリ）

（ちかさ　昵近ナレムヅブーナリ）

（ものゝふ　此詞万ニ多シ意ハ方葉ノモ孟況ノ如シ昵近イヤハ無物見）

（ふしてし　ウワホ重要ウハツリカイフ山シヒカモトアウヅクシ床ミアラネハ）

（ツクシ　柳棱　文選点）

（ミハ藤ト桐ト似タリトイヘリ）

（藤壺ト原ト似タリトノ玉フ　藤壺御子ヲヒテヨキトノ）

木名也又四方木ナリカウシケハ物ニ井ハ心ナリソハスルナトヨ

さも立ちて物しとかたらひ学さしたるかたちの

ものはかなき名立ちうたてあるを

（位言同ソノ木モツクミキオトヤ名付タリ菖蒲ソハ菖蒲ヤ名付故ナリ　胡代ツハリルモノ多ケレハナリ　側ふ　皆推シ）

（ココニ此コヨシモナシ六ノ初モトヒヨカニ料）

初元結六

（以上藤ト亜ノヨカケ）

おぼゆ　此ノ巻ノ十二ニ元服

元服南殿ニ

ものやうこそ

河髮ノ訓
髮髢ノ字不知所出和名害韵云髢計反和名毛止ゝ利
髮也四声字苑云髢音遷和名美豆良ゝ云訓上門屈髮也

河雉
日本紀
雉日本紀ニイシ神代トハヨメリ又ワカシトヨメルコトナシ

くるまの口産云きいしのおとこまた口産所前ありさる
ほとをこそ酒氏ゆいのつてついきうかた
所出和名害韵云髢計反和名毛止ゝ利
髮也四声字苑云髢音遷和名美豆良ゝ云訓上門屈髮也
うへてこそあるを所はいつる方へうそ
なかりけりなんしのもとにはやかて
ものをのうかりしのもとにはやかて
ものをかへてはうてそ所にすりあさ
ほうこれ人なりこそ所にはみとこまてえたのしのへ
ものをこそ所にはうつるを山うかまはうつ
うまいとをうたるものをうかりやと
うるうたてはあるまつ所うすいとをはさ
ものをきりはの大きのふとこそ所にはうつきうる

家ノ説ナレトモ紐ノ説ナレバ用ヰ不可用

口、ものをきこゆるをひはの口、ものをきこゆるをひはの口、ものをきこゆるをひはの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝふたつのほしあるまゝに
をとこをいまとなりのほしと
をとこやうなる人をふたり
なんめりふるものなるをたゝ
ばかりいとゆ（大臣ヲエリ）　男はけかしけるかいふる人をとこ
なりもいまはたゝえをかなるきはとのほしいとへど
をとこはてはをとこきこえもふたゝをとこ
めてのちめでまるやうにこゝろまいりのこゝ
ほしあるかたはらにこゝのあるきかたいはのうる
こゝをたゝくきゝてうしみのこゝろにたゝ
五月ばかりのほしいてたゝ三日なをとこまうこゝ
をまゝにたゝかはるきはほとほれくたゝて
かゝるこゝろまゝゆしのの人こゝ世中をなへ
こゝぬゝえるこのへのほとをまゝのほとをいくへ
ばかりをこゝ　たゝ（大ヒツミシテナヒヅクキ）ふるくはるこゝのけい
さゝほしこゝ母こゝやゝ所たゝ御ゝの人こゝてゝ
ゆゝこゝゝゝゝのこゝ殿こゝ月ゝこゝ
宣旨こゝてゝ　をこゝをこゝくこゝ明こゝもの本
をこゝ山こゝこゝ　たゝ　ゝこゝこゝ池のこゝ
こゝくこゝなゝ出こゝこゝ（カヒカヘシナリヲミ）ふるこゝこゝ
なゝのやうなる人をへ事すゝこゝやゝ宣旨こゝ
たゝ　ゝこゝ月ゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
つゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

帚木

科足一部ノ源氏なのことしきりにいかのふとう杯ゆうなるこ
ゆとしこそ[illegible]
名をやのこすらんと[illegible]
人の物ひさしかれさるハゆと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぎゐん
ぎゐんハ何よりもまさり
ノサワリ　ヲノ

ぬ　ぬ　ぬ

下ロヒル人ハ琴ヲ弾キ上ヒマブリモ
ヨウマブリ

中

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

執権　北殿

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ

あるぬ（そばとゐるまアル心ナリ）そ川へうさうはひなりなほ〳〵のうちめ
るも非参議の口位ともの〻ゆるしくもゆゝしくて
のゆさしいやしうぬゝやもとうさうをかるる〳〵ゆまい
うるいとかうさうなりや敬のうちよりぬとをそうる
うめるまこうそうぶまをおらうまをてうう〳〵つるむ
ゆめをとのゆゝめうくゆい出るもわさあるへ〳〵え
つうへういうをうてせひうんぬるいをいうるめとも
おなうううをいはゆてふうて志うるうをなうり
をわういあのことへのいをんやうるんえをゆをうを
うをめはるゆむゆものゝしをうをのゆをえうあいやを
るうあうのうゆくのゆをるゆ〳〵ををいをうんはは
ゆうをいをなるゆをうくゆをいをいをんをれをうんは
ゆをゆしうをあいをゆをうをれをあをれをいをるれ

回ゆへしうをあいをゆをうをれををうゆをれををるへう
をゆをれうをゆめうをうるうをうをもんをゆをうくまゆなふう
うをうふへうをうをうねをうをうをうかうをはうをうをうをはぬうを
世をあうをうへをうをれをうをゆをうくをんをゆくゆくをの
門をゆをいのゆをうをうをみをうをうをんをうへのうをうをんを
うをうをうををうをうをうくゆをゆをうくゆをゆをうをんをうと
ゆをうをうをうをうをうをんをゆをうをゆをうをうをうをうをく
ゆをうをうをうをうをうをんをゆをうをゆをうをうをうをうをく
ゆをうをうをうをうをうをゆをうをゆをうをうをうをうをうをく
ゆをうをうをうをうをうをゆをうをゆをうをうをうをうをうをく

かゝみ
河火影ハま記
紀無三
万十一
燈ノ影ニテ
空蟬ノ妹カ
ヒシ伊ミミユ

ものてゝ北ゆとゝて式ア
ちゝこゝゆのゝあるをゆりいて
もいえたいてやうこゝのたゝるこ
ぎいなるゆゝ（ミシテ上ノ兵ヲタシヒキオホスヨシ）たゝすきのるゝ
ぐうをたゝどけるゝ（ムツミシリキトケ王ルサミトリシリナキ心）ゝ
つゝゆゝふゝのゝいとゝめ
まりこのゝゝあゝゝみ（そゝみのゝるゝと上ニ三心セリ）ゝ
ゝんゝゆゝゝゝの人ゝうゝ（物ニ口ヒル汁）
ゝこのゝゝるつゝゝみふゝはゝゝ
ふゝゝゝゝゝゝゆゝゝ（ガヤリニアラスト云ヒ）
ゝりけゝゝのゝこゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人を物思はやうなりとみえてはてはてはかなき事
なれども不言の所ノ手ヲヒキナリ
そはまの人のあり様まことにいとゆゑ
ある人のさまにはあらねどいとなつかしく
情合世のあり様
ものやさしくなどいとこまやかにあ
はれなるまことにすこしうれ
ヒレラノ好ミサタクウモナシト
ものの思ひたるかたちもいとあ
はれにあはれとなりて
乃人のてらいはるる所をもきこえ
ぬものをいとあはれとおもひて
なほ文をかよはしてとかくなりて
ものいはやうなどみるにつきぬ
ものなれば
ひとりぬるあくるまをいとつれ
なくもてなしたるなどいとこの
ものの

（只何ヒセヌ心ミサヽ向フニハ非ス）

（大注不可ノ字ノ心）

（只ヒタフルニトニヨリツモユルシモルベキヲトニニテニモケテ心得ヘシ）

（よかハ異ノ字ノ心）

（ゆるのよ万九見芝原処士墓歌ノ後ニ処女墓中ニ不造置壮士墓北方彼方ニ造置有故縁敵而雖不知新喪之如毛哭泣鶴）

（ユヒヨレニシ義ナルフタツヲイヒタル也ヘシ）

大孔雀法平仲ノ邑ニ居ルノ比武蔵ヨリ下ル

[illegible]

[illegible]

本文粋一 慰ヲ思ヒ慰ニ 俗謂貴女ヲ御簡貴女ト称ス

何御ト云タク上貴女ヨリ起テサラヌ又ニモイリ

[illegible]

[illegible]

古社名出 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

あらぬへきことなれはたゝ物をきこえたるへきつかさなり
をんなとものことをこそうたにえんをつくしたるなれ
かやうのことはこゝにはかくしかくしたるなれはこそ
なるこゝろの所にこそ
かやうつけてわらはまさりぬへしかくこそ和国の人
うたをかきもそへしわすれけるもゆゑあるこゝろ
しるもしらぬやうなるものいひなりまさ
ふかきあやなしさまことはりたるなり
言あやなしさまことはりたるなり
をうなとこそ中将のいくさをあ
をうなとこそ和国人乃言の葉まさ
たるいはんもこれはなをいとあやしなく高
人をもとさはさしるをもてもなをみさんとなほ言葉
をたてまつりてあらんとのたまへ

於意也
恨めしうこそ
くふかるものをくる
のをしをしのをもて
ふりへて
世間ヲヨヘベシ

何
又選腦自賦云
臣手右不撃手
之舟
手其飛語出在乎
注子云陰手若
深淵之靜臣手
若不撃之舟云

其
ひくら他ハ
上手同手ノ異語
ニヤ

人乃ことはをもてあるまうきをりをいとおい
のことのこゝろ悪しきこゝろをしるとおもへて悪乃
こゝろをもてあることをしるとおもへて
とおりの人はしるとおもへるをもてあ
きあるこゝろ中将と世こゝろをしるへてあるへきこと
をおもへてよもの人のことをしるへきこと
乃与ろのものをしるへきこゝろ
のものをしるへきこゝろ
をきさいをこゝろをけるこゝろ
ものをしるへきこゝろ
あるへきこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一、ホ
待賢門院堀川ノ
歌ニ云ハ
アリ廿六体ニ云
アルヤウハ用ニ云
ナル

ものゝ
(ムツヒ言ヒ)
けらうと侍はれ
うらぬ人
侍きこえさせ
ぬ
ゆゑ
ものゝ
ものゝ
ものゝ

百人一首 家持 叔崎
史生 長屋王の
中ニ ちさかたの
くもゐにまがふ
おきつしら
なみとたちいる
あまをとめ
とこのあたりに
みえつるかも
みすまのうらの
すなをまくらに
ひとりかも
ねむ
ひとりかも
ねむ
ひとりかも
ねむ

もれりのかへりてこそ日ごろつまきあるをつくしさぶわ
（心トシテアリノ儀ナリ）
くらけ日ごろかくること思へてひ乃ふをしてそうくこと夜更て
いうつみそれかるまこそれるまこ（散）ひるまこそかるて所そ心いれん
（両説）
そそそ行いへどもかりそうそ思ひたりうこつかりの
たしの弱しもいかさまうへくそ見るそのあるそ物ろ
さしくやしてかのかのつかつ
（前段ノイヒツヅケテ中絶シタルカヤウ時ハ主キヤウナレハ猶トハニナリ）
見そそそ見ふそそそいつ
くそそかとさそそあこよひり頃のそ弁そ見あそ此を
（留守人ヤ体ナリ世ノ常ヨリ見ルニ）
歌
（留守人ヤ体ナリ世ノ常ヨリ見ルニ）
ものそいそをそこわ家てこのひそそやそ
そ思ひそれそそ心をそそ見みそ
（留守ニ居ヤ女房トスナリ）
（ヒヤウトメナリ）
（手持ブサタナレキシナリ）
（ヒヤウトメナリ）
（ヒヤウトメナリ）
（ヒヤウトメ

付きて大納言の家ことりとりとりとりとりとりて此人のいのやう
こゝの人ちらちらやちらしわやたく（モゼキヤラ）おちるしきちとこゝのこの家き
うきゝの道のりたゝあれくるるとりて池の水ことをとんて
（前ハ逢ヲコヒテコヒテ木枯サメ（前ニミキタル））
用ちゝやちるとうちとりたるとさらかりて行ぬるし
もちちちるをちちちちめわりたんこの男やちをぐちきて
（跡ヲサセリ アトキヨ云）（ぞかくトスルキヒ云）
門辺きらうのちのちちちのちちの用をる
蒲ちちちちちくうのちちちちちちの用きの紅ちちち
（ヒヨリ返ニアツイヂナクレトイハルモクセテゾキサクルヲ云ハルナリ）
ちちちとちちちちちち

（向テ見テキルバカリノコヽロヤリ）

（ヨリザレスギイバ）

（表ハカリヲモメキヲサルナリ）

（キトケズヲナレハスコラヲキトスルユヘニ
聞セラレヒトナリ）

可
嫉妬 手ノハム
素ハ字何ニヲ出ル

（同心ノ体）

（タルテロルリ（ナヨリ）ヨリ）

（外聞ワロキ）

（ハスワナ）

頑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あとあらん人もいとうとおもふことはねんごろにかたらし
さるまうしまもるらんとうもとりこめさるまきとらの女
やうとるとそらしてうとくゆくうらみれてうこみの人も
いとやうるまうまうとうとうこうとうとうとはは
さらぬとてとのいうこうしきあることみるこはるとうぬ
ことさいうこうこれて上うみの中うあるまかりしかをて
かりへうの人もやうこの兵うえうこれかきかるあるこそゆん
ゆううこみつてゆきかきかるよみうこうるふゆきあるは
つとねるさうまうえてさるうんとさるへきこれこ
ゆうあるこのやうとうかりこ
ゆんうんかえるうこの移とうこのきかりうきくう
詩のうとかるいめうしいとんうきかりうきくの雪とうとうよう

なとやうにつまるかいとるうこうあるこのいうこうこ
のちうこかりへてかりうあるこうこのかりうこ
ゆきるくめうとうとうふめこうなるこのかりうこ
中くのうをうれて月もうのうのあうるうとうこうこうかるあう
かりうう時くこのいうめうこうこうこのこのかりうこ
さんううめるうとうふうこうこうこうこうこうこうこ
のうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
とくこのくうんあうこうるうこうこうこうこ若い人のうのれあう
さうのこのこうこうこうこうこうこうこうこ
のうこうこれくうこうこうこうこうこうこ
うふのうこうこうこうこうこうこうこうこ
るうてあうこうこうこうこうこうこうこ

中河二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大和物語
本院九百ノ二ダ
伊勢ノ国ニテ人メイスヤリケルヨリニ
年仲ヨリシテキ
コエケル
ヒの吹こる乱風
つくさるるうつ
和君さるるとの
いるふ

たるたんと云ふ仕ふるるて張こてうる仕ふ乃のてうる仕ふ
ものとなるかんと申いりこと紀中納言ニテ立アサヤウノハアラシ君トキ中セテハアラズト私ニキこと元ヨリ
紀中納言ニテ立アサヤウノハアラシ君トキ中セテハアラズト私ニキこと元ヨリ
コレニシ心ハバハレンハ不思ノ名トナハイヤダハトニ云ルキ
ことふかそこいこ事
イスヤリケルヨリニ
年仲ヨリシテキ
コエケル
ヒの吹こる乱風
つくさるるうつ
和君さるるとの
いるふ

仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
我ーヲ云ルナリ
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
姫色ヲ云フ
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
来宮殿ト伊子ノ息タチトヨリホトトギスキキ
上ニ似ゲナキオヤト宣ル詞アルヲヤ
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
(インラニラフキ)
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
(中断ヨリニ天ノ中モズスニオノヤウニルコアラヤ)
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき
仕ふるるなるうしなりのめてうるしき

（ヨロヒトハ位ヲエミジヒトニ
心ニ同シ　ミジヒニオレ
タチテロヒトル所ヘ
オホシテハモテカヘ
ルホウニオホセルナリ
ヨロヒ人ワロリたち月
るるしたんしもめ
ドアリ）

ゆゑ　こゑ　ゆく　へる　ゆく　こと　ゆく　ゆく　こと　ゆく　こと　今まいる　こと　ゆく
いる　いる　いる　いまゆ　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
おもひ　おもひ　おもひ　おもひ　おもひ　おもひ　おもひ　おもひ　おもひ　おもひ　おもひ
きこえ　きこえ　きこえ　きこえ　きこえ　きこえ　きこえ　きこえ　きこえ　きこえ　きこえ
きこえし　きこえし　きこえし　きこえし　きこえし　きこえし　きこえし　きこえし　きこえし　きこえし　きこえし
（トミオミテレハアテ、夫ヒ置テ去ヒ
ヒ　クラキ故ノ詞）
ゆく　こと　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
（クラキ所ノ詞）
ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
（原ハサヒトハ思ヒモヨラスクラキニ
男ヒ恋ヒハケオトレスベシ）
ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
（コレハ恋ヒ至バナリ
コレニテ何ノクラキモミルヒヒベシ）
ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
（クラキ所ノ詞ハ形容ヲ云）

（ヌテ此ワタリ目ニ見ル
コトハカヌズカノ小考ノ
詞ニアナクラキトイヘル
ル持合ヲタリ）

こゑ　ゆく　こと　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく
（ナウチツケル上ニ体言ヲウケテ
ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（サウナドハデザリセヌ）

諸ノ上ニ

（公サクサトシルシキミ）

此まゝ世にありさまひわ[illegible]
[illegible]
きのふまちしをとれあ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

空蟬

やつはしの中納言

[illegible]

空蟬 二

つく[illegible]物[illegible]
[illegible]
[illegible]

近ケト夜早ク上ニ君ノ所ヲハ程遠カルベシ
ぎさねのぬしうすんとう（ゝ）
ちはさ北人もこのもるきにそう
ぎうし人をうゑはつとうもんぬまし
ゐとしとこの以うゐきうくしたり
西ノ方ハ見ヘズ考ヘリ
ぬうる所ちくんぬちうきうそ
こうちきゞ皆月も乃なれうてう
夜自遠目ナレバ
ゐきゆへ記きうまゝ一ゐ心ぬ
いうとうたうて行てこゝてかてちのるゝ
圓義
胆気抑索帯
ぬきひうれ使ゑ
うるやうるうぬるのみるぬ
さうりでうれ月ていまうゑ
所ゐく行ゐ人とうんうり
放俗ナル（シ）ハヲ清ミソヲ出ルヘシ
神代紀ト云フ天
細女乃ゑ
向ヒ立
ヨ考ヘテカヘリ
蔵 世字ニ
考タルモノ元
モスヒナリ古ヒ
ヨリモ不叶
ゝ小ゐのゝ

ゐと
今ニテ何ヒ思ハヌ
ノトこと思ハル勢カ
ヨ考ヘリ
ら見ぬて行てくれゐ
ひちふ行そんうる
うるうるきうるあてこ
ぬうまうこうこ
うりゐうこうれこ
そいとたりうゐあてうちる
乃ちうをふゐゐ
ゐとゐとゐ此ゐ
ゐとうれをうゐて
いゐのゆうまうを
たうを志ゐ
つうゐ行てをのりうそうれ
しゐうをのうゐあうる
もれこたゐられく
ゐこうゐ
ゐこうきうれ
ゐこうれ
ゐこうれ
ゐこ

初ニ花ヤナルト云ル三回シ形容ニヤクスレタスウキ〜トシタル人サミ
ゑてそくわいきやうつまいけるあれよ（ツシミナキ立サリ）ゆうてうち
とをてワいるとゝゑばうしゑ月のいかゝ（ハイミ心トヲ見ル西ナレハナルシ）
いとゝかなき人さゆかりおもいかなくれえあさるこ
トリミダシタルヤウノ息カ
ゆるゝ世ゑをこゝかゝるえ行ゆ（トニコレニ云実リモノ思合ヌ（シノ為ノ前オキ）
ゆるゝ世ゑをこゝかゝるえ行ゆ

たゝんでひろげて
置屏風ニモアワキ
ヲワヒテクワロキ
スヽ心ニヤヒロケニ
トアリケヲ写シ
タエリル屏風
吹トボトイハヒロ
ケリル屏風ニモヘ
ムヤキトハリ又
置タル屏風ヲタ
トハヒヘヤウヌ又
トアリ空ヲミニ
火アカキカタニ屏
ルヲヒロケテイヘ
ル書置置セリ

来猶屏風ノ方ニ非
ベシヽヽヽハ即つまゝ
ヒロケルコトルヽ下ノ
ヒロケルハ引ハスコトリ

立て吹くこの人こしのり給ひ出さしたもう
ものとて
こゝ
ろ
ふ
ま
ま
ま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬきもの（いろ
ス（レモトゴリス
雪駄戸北日
日本紀七九
ニミヨレバヌキ
タレネト忍心）

うちあらはすなりけりこれはこれ此ちくさのうへ
人のとりつくしまもなくもてなすものなり
うちいでまてうちぬきこえ聞きまもりていて
人のしりとうしまめかりてい
ひとりしてうつくしうなりぬ
ひとりてねたりけるをやとらはかりて
はいるこころはこれ
ふるこころはこれ
さうかりあるへくもあらぬ
見るかりて来るこ時ちまに
のうたこ
るうかうあるぬ
人のつかうまつるに
みなりの
ものしてまとかたてとのえんのかて
たりてとのえんのかて
ものをとりてけき
ものをとりてけき
ものをとりてけき

[illegible]

空蟬もゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

さふらひのぶしに[illegible]

しれる[illegible]

[illegible]

うけ[illegible]

三[illegible]

第[illegible]伊勢集ニアリ
伊勢集ニアリケルニ今ハ[illegible]
うけ[illegible]
此ノ[illegible]ニアリ古人記怪ノタヘルニヤ

成孚

1